

祐宗省三先生と森楸先生へのインタビュー

七木田 敦・中坪 史典

Interview with Seisoh Sukemune and Shigeru Mori

Atsushi NANAOKA, Fuminori NAKATSUBO

1966（昭和41）年4月に開設された幼年教育研究施設は、2015年度に創立50周年を迎える。本誌『幼年教育研究年報』（第37巻）は、その記念号として幾つかの特集を組んでいる。その中の一つとして、施設長や附属幼稚園長などを歴任された祐宗省三先生と森楸先生へのインタビューを企画した。祐宗先生は1967（昭和42）年4月から1993（平成5）年3月まで、森先生は、1971（昭和46）年4月から1996（平成8）年3月まで幼年教育研究施設に在職された（巻末の資料参照）。

これまで幼年教育研究施設では、特に施設としての活動の歴史や経緯を記録に残したり、資料を蓄積したりといった作業については、必ずしも十分に行ってこなかった。そこで今回は、両先生へのインタビューを通して、幼年教育研究施設の歴史や、かつて存在した、大学院教育学研究科幼児学専攻の歴史の回顧を試みた。このインタビューによって浮き彫りにされるものは、幼年教育研究施設のあゆみや大学院幼児学専攻設置の経緯はもちろん、附属幼稚園との関係、広島大学教育学部が広島市中区千田町から東広島市鏡山に移転したときの当時の状況など、多岐に渡るものである。従って読者の方々は、当時の教育と研究の状況や教員文化や学生文化の状況の一端に触れることができるだろう。

祐宗先生のインタビューは、2014年7月27日（日）に七木田敦が相模原市のご自宅に伺って行い、その後、原稿の形でいただいた。森先生のインタビューは、2014年9月18日（木）に中坪史典が広島市のご自宅に伺い、約2時間にわたって行った。